

静岡赤十字病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

承認番号 研究課題名	NO 2020-01 慶應義塾大学外科・関連多施設における末梢血管疾患診療に関する多施設共同観察研究
当院の実施責任者研究 及び職名	静岡赤十字病院 血管外科 部長 新谷 恒弘
他の研究機関および 各施設の研究責任者	統括責任者 尾原 秀明（慶應義塾大学外科 准教授） 和多田 晋（川崎市立川崎病院外科 部長） 内田 智夫（水戸赤十字病院外科 部長） 朝見 淳規（さいたま市立病院外科 部長） 原田 裕久（済生会中央病院血管外科 副院長） 松本 秀年（けいゆう病院外科 副院長） 秋山 芳伸（立川病院外科 部長） 関本 康人（東京医療センター外科 医員） 下河原達也（済生会横浜市東部病院外科 医員） 林 啓太（平塚市民病院外科 医員） 小野 滋司（東京歯科大学市川総合病院血管外科 助教） 横井 良明（岸和田徳洲会病院循環器内科 副院長） 山岡 輝年（松山赤十字病院血管外科 部長） Peter F. Lawrence (UCLA 血管外科)
研究期間（西暦）	研究実施許可日（倫理審査結果通知書発行日）より西暦 2025 年 3 月 31 日まで（状況により、適宜延長を検討する）
研究の目的	当科で扱う末梢血管疾患は、心臓内・頭蓋内以外の全ての血管（頸部、上肢、胸部、腹部、下肢）が対象となる。各部位における診療の対象となる疾患は、多岐にわたる。これには、動脈疾患では、動脈瘤（腹部大動脈瘤、末梢動脈瘤など）、末梢動脈疾患（急性動脈閉塞症、閉塞性動脈硬化症、Buerger 病など）、動脈解離、腹部内臓動脈疾患（動脈瘤、狭窄、閉塞症など）、医原性動

	<p>脈疾患（仮性動脈瘤、感染性動脈瘤）などが、静脈疾患では、下肢静脈瘤、深部静脈血栓症、門脈圧亢進症などが該当する。その他、動静脈奇形、膝窩動脈捕捉症候群、膝窩動脈外膜嚢腫、大動脈炎症候群、血管 Bechet 病、胸郭出口症候群、血管外傷、臓器移植時/血管合併切除時の血行再建などが該当する。近年、医療の進歩に伴い、末梢血管疾患に対する診断方法や治療方法（手術療法、薬物療法など）の選択肢は極めて豊富になった。例えば、画像診断の進歩に伴い、従来あらゆる血管疾患で標準的に行われていた診断的血管造影検査は、CT や MRI、超音波検査など低侵襲な検査に置き換わってきている。さらに治療法においては、従来の血管置換術やバイパス術に加えて、近年ではカテーテルを用いた血管内治療が増加傾向にあり、治療戦略が大きく変化しつつある。</p> <p>しかし、これらの急速に進歩をとげつつある診断、治療については、その有効性や成績が未だ十分に評価されていないため、不適切な適応のもとに行われ、患者に重大な不利益をもたらす事象も発生している。末梢血管疾患に対する標準的診断、治療方法の確立のために、データを集積、解析して、これらの妥当性・有効性を検証することは急務であり、研究機関の使命であると考えらる。</p>
<p>研究の内容</p>	<p>慶應義塾大学医学部一般・消化器外科、および関連多施設にて経験した末梢血管疾患について、前向きあるいは後向き観察研究を行うことで疾患の特徴を明らかにし、末梢血管疾患に対する診断方法や、手術を含めた治療方法など、標準的診療の確立を目指す。</p>
<p>個人情報の取扱い</p>	<p>本研究で得られるデータを、当該研究課題の範囲外で使用する可能性、当該研究の研究従事者以外が使用する可能性はない。</p> <p>本研究により得られた匿名化された個人データは当施設では担当責任者新谷が保管する。本研究の終了5年後まで保存するが、廃棄にあたっては外部記憶装置に保存された個人データは全て消去し、記録文書やメモ類は全てシュレッダーで粉砕処理する。解析に用いるコンピューターにはデータが漏洩する危険を回避するために適切な対策（最新版のウィルス対策ソフトウェアのインストール）を行う。</p>

<p>問い合わせ先 (拒否等受付窓口)</p>	<p>【研究担当者】 所属：静岡赤十字病院 血管外科 氏名：新谷 恒弘 住所：静岡県静岡市葵区追手町 8-2 電話：054-254-4311</p>
-----------------------------	---